

## 売 買 契 約 書 (案)

公立大学法人長野県立大学理事長 佐藤 慎次郎（以下「発注者」という。）と〇〇〇〇（以下「受注者」という。）は、次の条項により、物品の売買契約を締結する。

### （総則）

- 第1条 発注者、受注者両者は、信義を重んじ、誠実に本契約を履行しなければならない。
- 2 受注者は、この契約の履行に際して知り得た秘密を漏らしてはならない。

### （売買物品）

第2条 売買物品の品名、規格及び数量は、次のとおりとする。

- (1) 品名 図書館入退館システム一式
- (2) 規格 別紙仕様書のとおり
- (3) 数量 別紙仕様書のとおり

第3条 売買物品の納入期限及び納入場所は、次のとおりとする。

- (1) 納入期限 図書館入退館システム一式 令和7年3月31日まで
- (2) 納入場所 公立大学法人長野県立大学 三輪キャンパス2階 図書館

### （売買代金）

第4条 売買代金は、〇〇〇〇円とする。

（うち取引に係る消費税及び地方消費税の額〇〇〇〇円）

### （契約保証金）

- 第5条 受注者は、契約保証金〇〇〇〇円をこの契約締結と同時に発注者に支払うものとする。
- 2 発注者は、次条の規定により売買物品の引渡しを受けたときは、速やかに契約保証金を返還するものとする。
- 3 契約保証金には、利子を付さないものとする。

### （契約保証金の免除）

第6条 次の各号のいずれかに該当するときは、前条の規定に関わらず、契約保証金の全部又は一部の納付を免除することができる。ただし、契約人が契約を履行しないときは、納付を免除することとした金額に相当する金額を徴収する旨を契約の条件としておかねばならない。

- (1) 契約人が保険会社との間に法人を被保険者とする履行保証保険契約を締結したとき
- (2) 契約人から委託を受けた保険会社、銀行、農林中央金庫その他予算決算及び会計令（昭和22年勅令第165号）第100条の3第2号の規定に基づき財務大臣の指定する金融機関と工事履行保証契約を締結したとき
- (3) 契約人が過去2年間に法人、国、地方公共団体又はその他の公共的団体と種類及び規模をほぼ同じくする契約を2回以上にわたって誠実に履行した実績を有する者であり、かつ、契約人が契約を確実に履行するものと認められるとき
- (4) 法令に基づき延納が認められる場合において、確実な担保が提供されたとき

- (5) 国、地方公共団体その他公共的団体と契約を締結する場合において、契約人が履行しないこととなるおそれがないとき
- (6) 不動産または物品を売払う契約を締結する場合において、売払い代金が即納される時
- (7) 契約金額が100万円未満であり、かつ、契約人が契約を確実に履行するものと認められるとき
- (8) 前各号に掲げるもののほか、理事長が、契約人が契約を履行しないこととなるおそれがないと認めたとき

#### (納入及び検査)

第7条 発注者は、売買物品の納入があったときは、10日以内に受注者の立ち会いの上でその検査を行い、合格したときは引渡しを受けるものとする。

2 受注者は、前項の規定による検査の結果不合格となった売買物品について、発注者の指定する日までに代品を納入し、再度検査を受けなければならない。

3 前2項の規定による検査に直接要する費用は受注者の負担とする。

#### (売買代金の支払)

第8条 発注者は、前条の規定により売買物品の引渡しを受けた後、受注者から適法な支払請求書を受領したときは、引渡しを受けた日の翌月末までに売買代金を支払うものとする。

#### (危険負担)

第9条 第6条の規定による引渡し前に生じた売買物品の亡失又はき損による損害は、受注者の負担とする。

#### (瑕疵担保)

第10条 受注者は、売買物品の引渡し後1年間に、当該売買物品に隠れた瑕疵が発見されたときは、発注者の指定する日までに、自らの負担において瑕疵を修補し、又は代品を納入しなければならない。

#### (権利義務の譲渡、承継)

第11条 受注者は、この契約により生じる権利又は義務を第三者に譲渡し、又は承継させてはならない。ただし、発注者が特別の理由があると認め、あらかじめこれを承諾した場合は、この限りでないものとする。

#### (契約解除)

第12条 発注者は、次の各号の一に該当するときは、この契約を解除することができるものとする。

- (1) 受注者が、その責に帰すべき事由により、第3条に規定する期限までに売買物品を納入しないとき又は納入することができないと明らかに認められるとき。
- (2) 受注者が暴力団又は暴力団員が実質的に経営を支配する事業者又はこれに準ずる者（以下「暴力団等」という。）に該当する旨の通報を警察当局から発注者が受けたとき。
- (3) 前各号の場合のほか、受注者がこの契約に違反したとき。

(談合その他の不正行為による解除)

第12条の2 発注者は、受注者がこの契約に関して、次の各号のいずれかに該当したときは、この契約を解除することができる。

- (1) 公正取引委員会が、受注者に違反行為があったとして私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号。以下「独占禁止法」という。）第7条第1項の規定により措置を命じ、当該命令が確定したとき、又は第7条の2第1項の規定による課徴金の納付を命じ、当該命令が確定したとき。
- (2) 受注者（受注者が法人の場合にあっては、その役員又はその使用人）が刑法（明治40年法律第45号）第96条の6又は第198条の規定に該当し、刑が確定したとき。

(債務不履行の損害賠償)

第13条 受注者は、その責に帰すべき事由により、第3条に規定する期限までに売買物品を納入することができないときは、当該期限の翌日から納入した日までの日数に応じ、売買代金に対し年2.5%の割合で計算した額の遅延損害金を発注者に支払わなければならない。

- 2 発注者は、その責に帰すべき事由により、第8条に規定する期限までに売買代金を支払わないときは、当該期限の翌日から支払った日までの日数に応じ、売買代金に対し年2.5%の割合で計算した額の遅延利息を受注者に支払わなければならない。
- 3 受注者は、第9条の場合において、発注者に損害を与えたときは、その損害に相当する額を損害賠償として発注者に支払わなければならない。
- 4 受注者は、第11条及び前条の規定により契約が解除されたときは、第5条第1項に規定する契約保証金の額に相当する額を違約金として発注者に支払わなければならない。
- 5 発注者は、前項の場合において、第5条第1項の規定により契約保証金の納付又はこれに代わる担保の提供が行われているときは、当該契約保証金又は担保をもって違約金に充当することができるものとする。
- 6 受注者は、第1項又は第4項の場合において、発注者の受けた損害が同項に規定する遅延損害金又は違約金の額を超えるときは、その超える額についても発注者に支払わなければならない。

(賠償の予約)

第14条 受注者は、第11条の2の各号のいずれかに該当するときは、発注者が契約を解除するか否かを問わず、契約金額の10分の2に相当する額を賠償金として発注者の指定する期間内に支払わなければならない。契約を履行した後も同様とする。ただし、第11条の2第1号の場合において、命令の対象となる行為が、独占禁止法第2条第9項に基づく不公正な取引方法（昭和57年公正取引委員会告示第15号）第6項で規定する不当廉売であるとき、その他発注者が特に認めるときは、この限りでない。

- 2 前項の規定は、発注者に生じた実際の損害額が前項に規定する賠償金の額を超える場合においては、超過分につき賠償を請求することを妨げるものではない。

(暴力団等からの不当介入に対する報告及び届出の義務)

第 15 条 受注者は、当該契約に係る業務の遂行に当たり暴力団等から不当な要求を受けたときは、遅滞なく発注者に報告するとともに、所轄の警察署に届け出なければならない。

(秘密の保持)

第 16 条 受託者は、本契約の履行に際し知り得た発注者の業務上の秘密を第三者に漏らしてはならない。また、この契約の終了後においても同様とする。

(疑義の解決)

第 17 条 この契約に定めのない事項及びこの契約に関して疑義が生じたときは、発注者と受注者が協議して定めるものとする。

この契約の締結を証するため、契約書 2 通を作成し、発注者と受注者が両者記名押印の上、各自 1 通を保有するものとする。

令和 6 年 12 月 日

発注者	住 所	長野県長野市三輪 8 - 4 9 - 7
	職・氏名	公立大学法人長野県立大学理事長 佐藤 慎次郎 印
受注者	住 所	〇〇〇〇
	法人名	〇〇〇〇
	代表者職・氏名	〇〇〇〇 〇〇〇〇 印